

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 6 月号

1. 梨の栽培学習で摘果学ぶ

岩美支店は5月15日、岩美町立岩美南小学校敷地内の梨園で「二十世紀」の栽培学習を行った。

梨の栽培学習は毎年3年生児童を対象に行っており、春の交配作業を終え、この日の摘果作業を迎えた。児童は形の悪い実や発育不良の実を見極めながらハサミを使って作業した。今後2回の袋掛け作業を行い9月に収穫する予定。

体験した児童は「楽しく作業ができた。大きくて美味しい梨になって欲しい」と笑顔で話した。



2. 水煮筍の加工が最盛期

船岡筍加工施設では、5月上旬に「水煮筍」の製造が最盛期を迎えた。

今年は筍が多く収穫できる「表（おもて）年」で、船岡など J A 管内で収穫された大量の筍が同施設へ持ち込まれた。筍は茹でて整形し、水が入った一斗缶に詰めて103℃の蒸気で殺菌し、缶詰にしていく。同施設では、約30トンの筍を受け入れ、一斗缶（1缶11キログラム入り）約1000缶を製造する計画である。



3. らっきょう生産組合長会がらっきょう贈呈

福部らっきょう生産組合長会は5月22日、鳥取市幸町の中央人権文化センターを訪れ、「子ども食堂」へらっきょう10kgを贈呈した。

「子ども食堂」では子どもが一人でも安心して利用できるよう、無料または低料金で食事を提供している。同会の宮本和裕会長は「贈呈したらっきょうの浅漬けは、生産者と J A 職員が手作りで作った自信作。たくさん食べてパワーをつけてもらいたい」と話した。



4. 園児がさつまいも苗の植付けを体験

福部支店は5月27日、福部保育園と福部未来学園の児童を対象にさつまいも苗の植付け体験を催し、JA職員や児童ら約50名が参加した。

参加した児童らは、生産者から畝に寝かせるように植付けすることや土が流れないようにするために藁を敷くことなど、植付けの指導を受けながら作業に取り組んだ。

体験した児童は「初めての体験で楽しかった。おいしいさつまいもを収穫して、早く食べたい」と笑顔で話した。今回植付けした苗が育つ10月上中旬には、児童らの手で収穫する予定。

